

二〇二三年四月八日

苗売の男くはしき花言葉
花屑のさすらふ無人ホームかな
陽あたれる窓に縫りし冬の蠅
夫在さば共に喜寿なり花吹雪
春風や鼻でふれあふ親子象
大路なる車も停めし孕み鹿
頬杖が肘より崩れ春眠し
新入生見守り隊へ一礼す
ゆつくりと旅の朝湯に春惜しむ
落合にあいうちあへる花筏
一畝に蝶を集めて葱坊主
多島海霞の中に神隠し
墨磨りし硯に満つる春日かな

二〇二三年四月七日

子らの声もどる校庭飛花落花
花の雲眼下に山上レストラン
花びらが渦巻き駆ける交差点
菜の花の黄が河川敷占領す
新入生傘で地面にあいうえお

二〇二三年四月六日

陀羅尼助買ふみ吉野の花の旅
高笑ふ鸚鵡に笑ひ園のどか
待ちかねし入学子へと花万朶
橋桁にすがりとどまる花筏
今生の別れと泣くや初登園
潮の香を放ち蒸しあぐ螢鳥賊

なつき
せいじ
素秀
こすもす
凡士
ふさこ
ひのと
満天
はく子
うつぎ
素秀
千鶴
ひのと
なつき
はく子
あられ
素秀
かえる
もとこ
やよい
なつき
素秀
かえる
せつ子

二〇二三年四月五日

キッチンカー並び賑はふ花堤
春日浴び檻の狼深眠り
清明の木々抱き起こす宮大工
二〇二三年四月四日
山鳥のほろろと谷の山桜
よす波に鳥遊ばせて春の砂嘴
制服の袖丈伸ばす春休み
点滴と歩く廊下や春日向

二〇二三年四月三日

天守より花のまほろば一望す
白波の尖る大川春疾風
春惜しむ木造校舎の長廊下
春昼の船より受くる舫ひ綱
竿先の一閃まぶし山女釣り
リハビリに娘の見立てたる春帽子
二〇二三年四月二日
手に手とる園児らの列うらけし
飛び跳ねて桜並木のランドセル
バス行きてまた囁れる大樹かな
青松を抜けて白砂へ青き踏む
砂吐きて真夜の浅蜷のひとり言
ひとひらの花肩に乗せ初出社

二〇二三年四月一日

毎日句会みのる選・二〇二三年四月一日

あひる
ぼんこ
ひのと
素秀
たか子
みきえ
みきお
明日香
せいじ
やよい
ひのと
みきお
なつき
むべ
あひる
ひのと
隆松
智恵子
かえる